

滿洲ノねぢあやめトゆすらうめ



(滿洲ニテ撮影)

野生セルねぢあやめ (*Iris ensata* THUNB. var. *chinensis* MAXIM.)

ラ言ヘバ始メカラ左様ニ思フナラ専門
家ヲ煩ハス必要ハ少シモナイノデア
ル、斯イフ不遜ナ人ハ單ナル天狗トシ
テ取扱フコトハ出來ナイ、牧野先生ナ
ドハ常ニ多クノ地方人ト交通シテ居ラ
ル、カラ定メシ多ク斯イフ場合ニ際會
シ困ツテ居ラレルコト、推察シマスガ
私等同人ハ其様ナ人ハ一蹴シテ今後如
何ナルコトアリトモ交通ハシナイ迄デ
アル、敢テ専門家ノ聲トシテ地方同好
者ノ御參考迄ニ一言シテ置ク次第デア
リマス

○滿洲ノねぢあやめト ゆすらうめ

理學士 大賀 一郎

○ねぢあやめ (馬蘭)

南滿洲ノあやめ科植物デ最モ早ク花ノ
咲クノハこあやめト稱セラル、一種デ

滿洲ノねぢあやめトゆすらうめ



(滿洲ニテ撮影)

野生セルゆすらうめ (*Prunus tomentosa* THUNB.)

アル年々四月中旬カラ同ジク下旬
ニカケテ丘陵地ノ日當リノヨイ處
ニ見ラル、之レニ續イテ五月上
旬カラ同ジク中旬下旬ノ間ニねぢ
あやめ (*Iris ensata* THUNB. var.
chinensis MAXIM.) ガ未墾ノ荒地
ヤ路傍ニ一面ニ咲ク、想フニ現今
耕作セラレテ居ル廣イタ々高粱畑
ノアル處ハ其昔此ねぢあやめノ花
ノ畑デアツタデアラウ、支那人ハ
之レヲ馬蘭マラン又ハ馬蘭マラント謂ッテ花モ
實モ共ニ藥ニスル、又葉ハ編物ヲ
製シ根デハ「ブラシ」ガ作ラレル、
此馬蘭ノ實ヲ蠶實ト稱シ葉ガネデ
レテ居ルカラねぢあやめノ和名ガ
アル

○ゆすらうめ

滿洲デハ日本内地デさくらナドヲ
見ル様ニあんず(四月中旬開花)ヤ

うばゆりトおほうばゆり

なし(四月下旬開花) ガ半野生ノ状態ヲナシテ居リ又丘陵地ニハゆすらうめ (*Prunus tomentosa* THUNB.) (四月中旬開花) ヤこにはぐくら (*Prunus humilis* Bunge.) (五月上旬開花) ガ野生シテ居ル、樹木ノ少ナイ殆ンド裸ノ滿洲ノ丘陵ヤ溪谷ノ春ハ此等ノ樹々ニヨツテ美ハシク彩ラル、ノデアル、前頁ニ掲グル寫眞ハ野生ノゆすらうめデ大連附近ノ地ニ生ジテ居ルノヲ撮影シタモノデアル
日本ノ内地ニハゆすらうめノ野生ハナク唯栽植セラレテアルノミデアル、之レヲ櫻桃トスルノハ固ヨリ誤リデアッタ、ゆすらハ朝鮮語デ元來同屬中ノ別ノ植物ノ名デアル

○うばゆりトおほうばゆり

久 内 清 孝

米國アーノルド樹木園ノエルネスト、ウキルソン氏ノ近著『東亞ノ百合』ヲ見ルトうばゆりトおほうばゆりトヲ一括シテ一種トナシ且ツ此迄通り *Lilium* 屬ニ入レテ居ル

元來うばゆりトおほうばゆりトハ曩ニ牧野氏ガゆり屬ト分離シテ *Cardiocrinum* ナル新屬ヲ設定シ之レニ配屬セシメタモノデコノ兩種ハ截然區別シ得ラレ前者ヲ *C. cordatum* MAKINO. 後者ヲ *C. Glehnii* MAKINO. トセラレタルハ既知ノ事實ニ屬スル而シテおほうばゆりハ全形壯大、葉狀短圓、花ハ前者ニ比シ小且ツ多數デアル、サレバコノ二者ハ明カニ兩分シ得ラル、モノデウキルソン氏ノ說ノ如ク固ヨリ混同スベキモノニアラザルヤ明カナルニ氏ハ其異同ヲ辯ズルコト能ハザリシモノト見エ汎然ト此等ヲ一種トシタ、吾人ハ氏ガ何程ノ理由ニ基キ斯ク爲セシカラ怪ミウ氏ノ爲スガ如ク自國語ニテ遠吠ヲ試ムルコト如此ダ、ソシテ茲ニおほうばゆりノ寫眞圖ヲ掲ゲ置ク是レハ相州箱根山デ撮影シタモノデアル、此種ハ花ガ澤山著イテ稍小サク葉ハ闊大デ圓イ西洋ノ學者ハ久シキ以前カラおほうばゆりヲうばゆりト思違ヒヲシテ居リ今日デモ尙其非ヲ悟ラザルコト前述